

事業のタネシート

活動地域・団体名：京都府亀岡市

事業名称 1：ライフスタイルの改革を促す「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」関連事業

あらすじ

「亀岡市ゼロエミッション計画」に基づく、ごみを出さない地域社会の実現を目指し、これまでの大量生産・大量消費型のライフスタイルの変革を目指す。環境を切り口にした地域循環共生圏形成の礎となる「消費者の環境意識」を醸成・共有する。

ストーリー

世界規模の問題である海洋プラスチック汚染であるが、海洋に流出するごみの8割は内陸河川からのもの。市内を貫流する保津川の河川環境保全・美化の取組みを源流とする「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」、その目標である使い捨てプラごみゼロのまちを目指し、国内初となるプラ製レジ袋の提供禁止条例の施行等、各種の事業を展開している。市民が親しむ河川から生まれたこの流れを、環境の側面だけでなく芸術文化等、様々な分野と連携した施策として具現化することで、現在のライフスタイルの見直しや改革に繋げ、消費者や事業者理解を獲得する。ライフスタイルや考え方の変化を、廃棄物全体を減量することに繋げ「ごみを出さない社会」を実現する。廃棄物処理費用の削減は、他の施策の財源に還元し、住民サービスの充実に繋げる。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	ごみを出さない地域社会を実現することで住民サービスが充実するまち	使い捨てプラごみ削減に向けた、消費者と事業者理解の獲得 環境ロゴマークのブランディングと積極的運用にあたっての展開方法の構築
②課題	消費者や事業者理解の獲得 地域内での資源循環システムの構築	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	今後の事業展開に必要な不可欠な消費者からの理解を得るため、環境意識醸成を図る。	
④地域資源	保津川、自然、霧の芸術祭、観光、スタジアム	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	社会のルールとしての条例、環境ロゴマーク、HOZUBAG、給水スポット、エコツアー	
⑥担い手 (Who)	地域協議会参画団体、民間事業者、市民	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	ごみの減量・分別促進→処分費の減額→他のサービスの充実 HOZUBAG製作→雇用創出→所得向上→地域経済活性化 環境先進都市ブランディング→郷土愛（誇り）→定住人口増	環境問題等に積極的に取り組む企業（パートナーシップ協定等の締結を見据えて）
⑧事業で生じる成果	環境先進都市の確立、財政健全化、地域経済活性化、定住人口増	商品やロゴマークのブランディングに知見のある専門家

事業名称 2 : 亀岡ふるさとエナジー株式会社による再生可能エネルギー普及事業

あらすじ

エネルギー代金の地域外流出を抑制し、持続可能なエネルギーの地産地消システム構築を目指し、地域新電力会社「亀岡ふるさとエナジー株式会社」による、地域内のエネルギー（太陽光・消化ガス等）の普及を促進する。2021年2月には「かめおか脱炭素宣言」を発表。

ストーリー

亀岡市内において、行政・企業・市民が連携し、太陽光や消化ガス等のエネルギーを地産地消することで、エネルギー代金の域外流出を削減する。

また、地域内のエネルギー導入促進だけでなく、発生する収益を防災対策として公共施設への太陽光発電設備及び蓄電池設置や、市内事業所の省エネ診断の実施等に活用することで、環境先進都市に向けたまちづくりにも寄与する。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	エネルギーを地産地消するまち	再エネの供給可能量（発電量）の増強 市内公共施設以外の電力供給先（契約先）の開拓
②課題	電力調達量と供給先の増強	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	エネルギー代金の地域外流出を抑制、地産地消するシステムを構築し、地域経済循環率の向上を目指す。	
④地域資源	亀岡ふるさとエナジー株式会社、市下水処理場、自然、スタジアム、市内企業	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	地域内エネルギー	
⑥担い手（Who）	亀岡ふるさとエナジー株式会社	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	エネルギー（太陽光・消化ガス等） エネルギーの地産地消→地域内での資金循環→経済活性化	マーケティングの専門家
⑧事業で生じる成果	再エネの普及による脱炭素化、エネルギー代金の地域外流出を抑制、地域経済循環率の向上	

事業名称 3 : 企業連携や I C T を利活用した教育の充実によるグローバルな人材育成事業

あらすじ

企業と連携し、環境をはじめとする教育の充実を図り、地域への誇りと郷土愛を持ったグローバルな人材を育成する教育システムを確立することで、環境先進都市としての地域ブランドの確立と移住・定住人口の増加に繋げる。

ストーリー

市内の小学校や中学校、高等学校において、世界的な企業と連携し、ICTや企業理念だけでなく、地域の状況や取組みも織り交ぜることで郷土愛を育み、地域の将来を担う広い視野を持ったグローバルな人材を育成する。

今後は、現在実施している環境教育だけでなく、英語教育等、違う分野のコンテンツも作成し、さらなる教育環境の充実を図る。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	地域に誇りを持って、自然を守り多様な知見を持った次世代が活躍するまち	環境以外の他分野での I C T を活用した教育コンテンツの作成や確保 市内小中学校での導入促進
②課題	環境教育以外のコンテンツの作成、実施	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	地域の次世代を担う年代への教育の充実により、郷土愛を持ったグローバルな人材を育成する。	
④地域資源	地域の若年層、教育環境	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	I C T の利活用等、企業と連携した教育システム	
⑥担い手 (Who)	ソフトバンク株式会社、株式会社ユニクロ亀岡店、プリタジャパン株式会社、公益財団法人亀岡市環境事業公社	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	教育の充実→郷土愛や誇りを持った人材→人材が地域に根付く→人口増・様々な知見の還元	各種教育コンテンツ・システムの構築に必要な各種分野の専門家
⑧事業で生じる成果	郷土愛の醸成による若年層の流出を防止、定住人口の増	